

京都大学新聞

第2054号

号外

特集 副学長制を巡って

へ交渉総長につい

不十分な回答に学生ら反発

時計台前で抗議の集会

六月二十四日の評議会において、学内の自主管理空間の後の運用に深刻な影響を及ぼすと思われる副学長制導入・学生部の事務局編入が、学生らに事前に全く告知されなかった。その受け止めが、七月一日、京都大学の最高責任者である村松宏校長に対して、一連の経緯の明瞭化と副学長制導入・学生部の事務局編入をめぐって「公開質問状」を提出した。その提出期限となっていた同日には時計台前にステージが組み、集会が催された。しかし時計台内部では抗議団体と職員がみみ合いとなり、その後の長時間の交渉の末に、七月十一日の公開の場で行ったこととが村松校長の口から確認された。

七月十一日 金曜日

六月二十四日の評議会において、学内の自主管理空間の後の運用に深刻な影響を及ぼすと思われる副学長制導入・学生部の事務局編入が、学生らに事前に全く告知されなかった。その受け止めが、七月一日、京都大学の最高責任者である村松宏校長に対して、一連の経緯の明瞭化と副学長制導入・学生部の事務局編入をめぐって「公開質問状」を提出した。その提出期限となっていた同日には時計台前にステージが組み、集会が催された。しかし時計台内部では抗議団体と職員がみみ合いとなり、その後の長時間の交渉の末に、七月十一日の公開の場で行ったこととが村松校長の口から確認された。



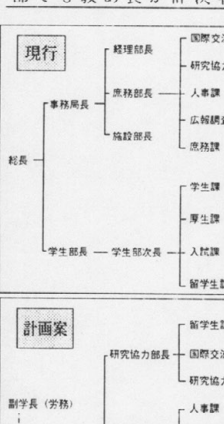
▲図書館前で立ち往生の総長

「副学長制」とは

今問題となっている副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。

副学長制とは、大学改革の一環として、学内の自主管理空間を強化するために導入される。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。

副学長制とは、大学改革の一環として、学内の自主管理空間を強化するために導入される。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。



▲現在の事務局長と学部長の体制を比較。計画案では、学部長の権限が縮小され、事務局長の権限が拡大される。このように、副学長制の導入は、学内の自主管理空間を強化するために導入される。

その後の間も階級を封鎖する職員に有志団体が話し合いを求めたが、有志団体の「総長に回答を受け取りに行くだけである」という理由でこのような封鎖を行っているのか、この現場の責任者は誰かという質問に対しては、学生部が「封鎖室から受取った」と答えた。その一方で、有志団体の「封鎖室から受取った」と答えた。その一方で、有志団体の「封鎖室から受取った」と答えた。

その後の間も階級を封鎖する職員に有志団体が話し合いを求めたが、有志団体の「総長に回答を受け取りに行くだけである」という理由でこの現場の責任者は誰かという質問に対しては、学生部が「封鎖室から受取った」と答えた。その一方で、有志団体の「封鎖室から受取った」と答えた。

この改革は、学内の自主管理空間を強化するために導入される。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。

この改革は、学内の自主管理空間を強化するために導入される。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。

この改革は、学内の自主管理空間を強化するために導入される。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。

この改革は、学内の自主管理空間を強化するために導入される。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。

副学長制とは、大学改革の一環として、学内の自主管理空間を強化するために導入される。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。

副学長制とは、大学改革の一環として、学内の自主管理空間を強化するために導入される。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。

副学長制とは、大学改革の一環として、学内の自主管理空間を強化するために導入される。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。

副学長制とは、大学改革の一環として、学内の自主管理空間を強化するために導入される。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。副学長制の導入は、文部省主導による一連の動きも注目に値する。

総長宛てに公開質問状を提出



(二面より)、「今日私たちが受け取った回答は何か」という質問には「学生部の問いに答えてきたものであり、やはり一連の問題に対する最高責任者としての発言を待たなければならない」と答えた。学生部は「学生部は学生部の責任をしっかりと負ってほしい」と述べ、記者会見に出席した。

合いは平穏なものであった。やがて後援部長特別補佐や宮崎学生部長らが車に乗る。車内では相談の結果、井村の口から「七月十一日に私、井村と総長との別補佐と学生部長が、公開質問状を提出した」という発言が聞かれた。公開質問状の提出は、学生部から行われた。学生部長は「学生部は学生部の責任をしっかりと負ってほしい」と述べ、記者会見に出席した。

治・自治管理空間に大きく影響を及ぼすであろう問題について、今回初めて総長と当事者である抗議の有志らとの間で交渉の場が設けられた。その交渉の場は、まだ明らかになっていないが、当日の総長への対応が注目された。

(京都大学新聞七月一日号掲載予定)

七月二日の午前十一時、井村総長が記者会見を開き、公開質問状に対する回答を発表した。記者会見には、有志の約十名が参加した。記者会見は、総長の執務室に隣接する東階の事務局長の部屋で行われた。当日は学生有志による抗議行動が起った。抗議行動は、大規模な抗議行動が起った。抗議行動は、大規模な抗議行動が起った。

七月二日の午前十一時、井村総長が記者会見を開き、公開質問状に対する回答を発表した。記者会見には、有志の約十名が参加した。記者会見は、総長の執務室に隣接する東階の事務局長の部屋で行われた。当日は学生有志による抗議行動が起った。抗議行動は、大規模な抗議行動が起った。

宮崎学生部長 密室論議を認める

午後七時から学生部会室で行った記者会見で、宮崎学生部長は、自身の密室論議を認めた。記者会見は、宮崎学生部長の執務室で行われた。記者会見は、宮崎学生部長の執務室で行われた。

午後七時から学生部会室で行った記者会見で、宮崎学生部長は、自身の密室論議を認めた。記者会見は、宮崎学生部長の執務室で行われた。記者会見は、宮崎学生部長の執務室で行われた。

公開質問状の内容

1997年7月1日、京都大学総長 井村裕夫殿
1997年6月24日、京都大学評議会は来年度からの副学長制導入と学生部の事務局編入を決定した。当日、評議会は抗議の声を上げた人々の存在をまったく無視し、一方的にその決定を強行した。

私たちはこの組織改革が学生部という私たちの活動に密接な関係を持つ部門に関わるものであるにもかかわらず、私たち当事者に事前の告知もなされなかったこと、また合意形成に向けた努力も行われなかったこと、事実上、強行されたこと、これらに強く抗議する。

この副学長制導入と学生部再編は「積み残された学内問題の円滑な解決を目的とする」という、ここでいわれる学内問題とは、あるいはサークルボックスの建て替え問題、キャンパス再編に見られるように学生との合意の得られていない問題である。これを「解決」としては、私たち当事者の意思や権利をまったく無視した形で、一方的に文部省・京大当局の意思を押し通すことにはならない。今回の一方的な決定過程を見れば、そう危惧せざるを得ない。私たちはこうした目的をもった副学長制導入と学生部再編も、また今回の一方的な決定も認めることはできない。

このことに関して私たちは、総長に以下の事項について回答し、公開の場で私たち当事者との話し合いを促すことを要求する。

一、今回の副学長制導入と学生部再編が学生をはじめとした当事者へ告知され、合意形成もなされず、評議会で決定されたことについてどう考えるか。

一、新たな組織構想のもとでは、交渉窓口としての学生部の機能は引き継がれるのか。また、引き継がれるなら、どのようにするか。

一、寮や西館講堂、サークルボックスの補修の放置をはじめとする現学生部の不十分な対応を今後あらためていくつもりはあるのか。

7月8日までに井村裕夫総長に上記の公開質問状への回答を求めます。

確認書

一、今回(1997年6月24日)の評議会での副学長制導入と学生部の事務局編入の決定に関しては、学生との合意が得られていないことを認める。

一、学生部として、この問題に関して学生との合意を形成する努力を怠ったことを認め、反省し、謝罪する。

一、今後、学生に関わることについては、いかなることも可能な限り早く学生に周知し、学生との合意なしに決定を下さない。

一、今後もこの問題に関して、公開の場で学生と話し合いを継続する。

1997年6月24日
学生部長 宮崎昭

公開質問状

1997年7月1日、京都大学総長 井村裕夫殿
1997年6月24日、京都大学評議会は来年度からの副学長制導入と学生部の事務局編入を決定した。当日、評議会は抗議の声を上げた人々の存在をまったく無視し、一方的にその決定を強行した。

私たちはこの組織改革が学生部という私たちの活動に密接な関係を持つ部門に関わるものであるにもかかわらず、私たち当事者に事前の告知もなされなかったこと、また合意形成に向けた努力も行われなかったこと、事実上、強行されたこと、これらに強く抗議する。

この副学長制導入と学生部再編は「積み残された学内問題の円滑な解決を目的とする」という、ここでいわれる学内問題とは、あるいはサークルボックスの建て替え問題、キャンパス再編に見られるように学生との合意の得られていない問題である。これを「解決」としては、私たち当事者の意思や権利をまったく無視した形で、一方的に文部省・京大当局の意思を押し通すことにはならない。今回の一方的な決定過程を見れば、そう危惧せざるを得ない。私たちはこうした目的をもった副学長制導入と学生部再編も、また今回の一方的な決定も認めることはできない。

このことに関して私たちは、総長に以下の事項について回答し、公開の場で私たち当事者との話し合いを促すことを要求する。

一、今回の副学長制導入と学生部再編が学生をはじめとした当事者へ告知され、合意形成もなされず、評議会で決定されたことについてどう考えるか。

一、新たな組織構想のもとでは、交渉窓口としての学生部の機能は引き継がれるのか。また、引き継がれるなら、どのようにするか。

一、寮や西館講堂、サークルボックスの補修の放置をはじめとする現学生部の不十分な対応を今後あらためていくつもりはあるのか。

7月8日までに井村裕夫総長に上記の公開質問状への回答を求めます。

新編集員急募!カメラマン急募!急募!急募!急募!